

# 私立 札幌国際大学

取組名称 学生同士の啓発を含む4年間の一貫したキャリア支援体制

取組担当者 人文学部 教授・キャリア支援部長 武井 昭也

## 1. 本学の概要

本学は1922(大正11)年4月設置の札幌静修会女学校を嚆矢とし、1969(昭和44)年4月に札幌静修短期大学としてスタートした。

大学は1993(平成5)年に静修女子大学として開学し、その後、1997(平成9)年4月に法人名を学校法人静修学園から学校法人札幌国際大学に変更した際に、札幌国際大学並びに札幌国際大学短期大学部に変更し、現在に至っている。

現在は人文学部現代文化学科と心理学科、観光学部観光ビジネス学科と観光経済学科、スポーツ人間学部スポーツビジネス学科とスポーツ指導学科の3学部6学科、地域社会研究科・心理学研究科・観光学研究科の3研究科体制である。学部には計1,579名の学生が学んでいる。(募集停止の社会学部ビジネス実務学科、マスコミュニケーション学科、観光学部観光学科在学生を含む)

本学では、「真理を探ね、自由を愛し、自らを省みる自立した人間を育成する。」「理想を求め、明日の地域社会を拓く創造性豊かな人間を育成する。」「日本人としての自覚と誇りを持ち、自らの責任において行動する国際人を育成する。」を「建学の礎」として掲げ、地域社会への貢献と自立の精神を重視する教育に重きをおき、実務的な資格取得にも力を注いでいる。

## 2. 本取組の概要

社会は大学卒業時において自立した社会人としての基礎力を身に付けた人材を強く求めており、優秀な人材を確保するために様々な選抜方法を開発している。

一方、大学に入学してきた学生のキャリア発達には個人差が大きく、大学の専門教育の中で学ぶ意義や課題を発見させるには、学生個々の発達状況を認識しながらキャリア支援を進める必要がある。本取組は、就職支援の窓口であるキャリア支援センターと専門教育を担う学部・学科との協働による多面的キャリア形成

支援プログラムである。

具体的には、4年間の一貫したキャリア支援プログラムの構築のために、①キャリア支援センター職員及びアドバイザー教員による個別相談体制の強化、②学生が具体的に人生設計を考えるためのキャリア科目の充実、③就職ガイダンスやセミナーによる情報提供、④ビジネスの現場を学ぶインターンシップの拡充、⑤学生の自発的就職活動の支援を行う。

## 3. 本取組の趣旨・目的・達成目標

本取組では、学生が自立した社会人として就職できるよう、教職員がキャリアに関する課題を共有し、きめ細かなキャリア支援を行うための組織を構築する。そのためキャリア形成や就職活動の支援に関わるキャリア支援センター、キャリア科目担当教員、学部学科の専門科目担当教員が連携して、学生が卒業時に自己の成長を確認し、希望の進路が実現できるような就職支援を目指す。

### (1) 達成目標

本取組により得られる具体的な成果は、以下のとおりである。

- (i) 講師の招聘や一般学生への呼びかけ等、講演会の運営に必要な業務全般を学生自ら担うことで、学生が就職活動に主体的に取り組む姿勢が培われる。また、自発的活動の裾野も広がる。
- (ii) 学生が自主的にエントリーシート及び筆記試験対策講座を開催することによって、表現力を磨くことができるとともに自己啓発の機会となる。また、筆記試験対策講座によって、自己の到達レベルを理解し必要な能力を身につけるための目標が明確になる。
- (iii) 就業体験から長期インターンシップまで、インターンシップの選択肢を増やすことで、学生の人間的成長につながる。
- (iv) 教職員対象のキャリア支援研修会によって、キャリア支援の課題を共有するとともに、キャリア担当者のスキル向上につながる。

## 4. 本取組の具体的な内容・実施体制

### (1) 本取組の具体的な内容

「学生同士の啓発を含む4年間の一貫したキャリア支援体制」を構築するために、学生の自発的就職活動を支援するとともにキャリア支援プログラムの一層の充実・発展を目指す補助事業であり、内容は以下のとおりである。

#### (i) キャリアノートの開発

個人のキャリアに対する到達目標を学年別に明確にさせ、本補助事業で提供する各種講座や就職情報の収集等について教員アドバイザーやキャリア支援センター職員の助言の下で、個々人が目指す進路を達成できる情報システムを構築する。

#### (ii) アドバイザーによる個人面談

キャリアノートに基づいて実施し、目標到達度等を確認しながら個々の課題把握に努める。また、教員、キャリア支援センター、学生による研修会を開催し、学生の自発的就職活動を促す。「全国私立大学就職指導研究会」に参加してキャリア支援情報の収集に努める。さらに、自己の才能や得意領域を発見し、将来方向を見出すための「自己分析・適職発見プログラムR-CAP」を受験する。

#### (iii) 基礎学力養成講座

外部講師を招聘し、就職活動に求められる言語、数学、政治・経済等の基礎学力習得を目指す。

#### (iv) 「全国私立大学就職指導研究会」参加、基礎学力養成講座

入社試験対策講座を開講し、筆記試験、グループディスカッション、個人面接対策を実施する。

#### (v) 研修会の開催

#### (vi) キャリアノートの活用

完成したキャリアノートを使いながら、アドバイザーの指導の下で実践的な就職活動の進め方や各種講座への参加、自己分析を通してキャリア形成上の課題や解決方法の発見につなげる。キャリアノートを使いながら自己分析を進め、履歴書やエントリーシート作成についても学ぶ。

#### (vii) 社会人基礎力講座の開催

外部講師を招聘して、社会人として必要な前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力を身につけるための社会人基礎力養成講座を開講する。

#### (viii) インターンシップ講座の開催

外部講師を招聘して就業経験によって得られる職業適性や生活設計の意義等について学ぶ。さらに、アドバイザーの指導の下で自己発見レポートを実施し、

キャリア支援関係図

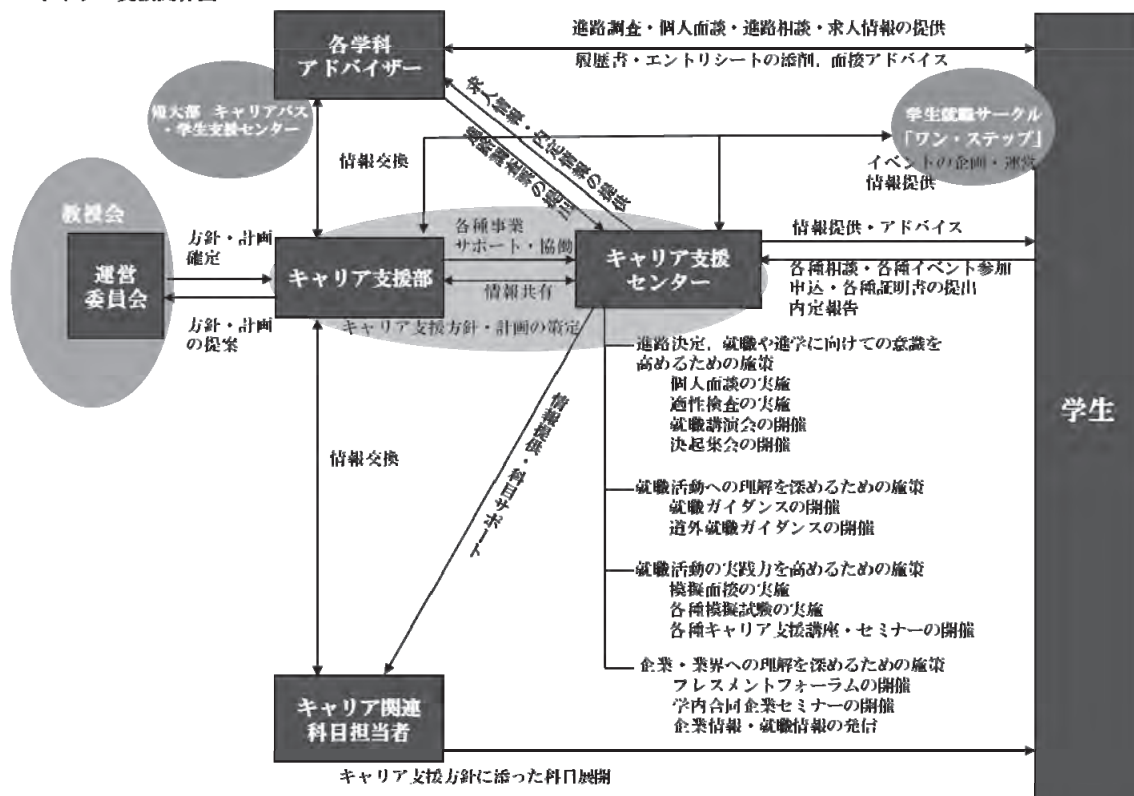


図1 本学のキャリア支援関係と学生就職サークル

自己分析力、将来の進路、職業観の育成を促す。

(ix) プレイスメントフォーラムの開催

各界で活躍している卒業生を招聘し、実際の就職活動、業界・企業について聞くプレイスメントフォーラムを開催する。

(x) キャリアカウンセリング研修会

外部講師としてキャリアカウンセラーを招聘して、キャリア支援に関わる教職員対象にキャリアカウンセリングとは何かについて学ぶ。

(xi) キャリア支援フォーラムの開催

本取組の成果や今後の課題について、学内外の講師によるキャリア支援フォーラムを開催する。

(xii) 成果報告書作成

本取組のキャリア支援プログラムの実施内容や成果を報告書として取りまとめる。

これらを通じて、選定された取組をさらに充実・発展させ、本学のキャリア支援教育の充実を図ることが、本取組の内容である。



写真1 キャリア支援センター主催就職講演会

## 5. 本取組の評価体制・評価方法

本取組では、図1にあるようにキャリア支援部長並びにキャリア支援センター課長が中心に、キャリア支援センターとキャリア支援部が窓口となり、教務部、キャリア科目担当教員、インターンシップ担当教員、専門教育担当教員と連携しながら全学的組織として取り組む。

学長及びキャリア支援センターを所管するキャリア支援センター課長及びキャリア支援部を所管するキャリア支援部長が評価を行う。加えて学内における自己点検評価委員会に取組結果の報告をする。

本取組によって4年目学生の就職内定率を90%以上として目標設定する。また、1～4年の学年毎のキ

ャリア形成目標の設定及び職業観の育成に関する到達目標を80%とする。

## 6. 本取組の実施計画等

2009(平成21)年度は教職員による研修会や講師派遣、学生の自発的就職活動について組織づくりのサポート、インターンシップ先の開拓、個別相談の展開を通して全学的にキャリア支援に関する課題を共有する。

2010(平成22)年度以降については、4年間のキャリア教育の中で、学生が自己の成長を確認しながら進めるプログラムの展開、充実を図る。



写真2 ONE STEPによるエントリーシート・筆記試験対策講座

### (1) 2009(平成21)年度実績

2010(平成22)年2月に学生グループONE STEPによる就職講演会(テーマ:感謝の気持ち一人間力を養う)とエントリーシート・筆記試験対策講座を開講した。

2010(平成22)年3月には外部講師を招聘し、インターンシップ先の開拓と教職員対象のキャリア支援研修会を実施した。

ONE STEPによる就職講演会においては、講師から就職活動において理念を持って生きることや縁を結ぶこと、感謝の気持ちを持つことが人間力を高めることに繋がるのとレクチャーがあった。学生約30人が参加し、講師招聘、参加者募集、司会、記録等を学生が自主的に行うことで、就職活動を通して自分の成長にも繋がる態度が養われた。エントリーシート・筆記試験対策講座は、本学非常勤講師及びキャリア支援センター職員によるアドバイスの後、参加者による模擬テストを実施し、採点と講評を行った。受講者は自分の現在の実力を理解し、具体的に取り組むべき目標が明確に示された。



写真3 ONE STEPによるエントリーシート・筆記試験対策講座

また、長期インターンシップ先の開拓により、観光学部の学生を対象として千歳観光連盟から内諾をいただき、具体的な受け入れ条件等の検討に入ることになった。キャリア教育や専門教育との連携、教員の意識改革等の講話の後、新年度のキャリア支援事業についてキャリアノートの開発・活用方法、学生支援のあり方について討論を行った。

## (2) 具体的成果

ONE STEPによる就職講演会では、参加学生にとっては大学生活の中で社会と積極的に関わっていくことが人間力を高める上で、何より重要だとの話が印象的だったようである。直接就職に関わる技術を身に付けるという話ではなかったが、学生の評価は高く、このような話に耳を傾けられる学生の存在は大きい。また、イベントに参加した学生が、仲間作りや活動の継続に意欲的になった点も評価できる。添削指導のようなきめ細かな対応によって、学生は自らの力を知り努力する目標ができた。このような指導の必要性をキャリア支援センターのみならず、アドバイザー教員も担うべきとの理解が広がった。



写真4 ONE STEPによる就職講演会

長期インターンシップは、単なる就業体験とは異なるタイプのインターンシップであり、今回は観光学部と千歳観光連盟の協力を得て、観光調査、イベント参加、PR活動等、企画・運営部門への学生派遣に筋道をつけることができた。また、教職員対象のキャリア支援研修会では、4年間の一貫したキャリア教育や専門教育との連携の重要性が確認できた。

## (3) 2010(平成22)年度の事業計画

- 4月～7月 キャリアノートの開発
- 4月～5月 アドバイザーによる個人面談の実施①、研修会の開催①、自己分析・適職発見プログラムR-CAPの実施、全国私立大学就職指導研究会参加①
- 6月 基礎学力養成講座①
- 7月 基礎学力養成講座②、入社試験対策講座、全国私立大学就職指導研究会参加②
- 8月 研修会の開催②
- 9月 キャリアノートの配付、社会人基礎力養成講座①
- 9月～3月 キャリアノートの活用
- 10月 社会人基礎力養成講座②、自己発見レポートの実施
- 11月 基礎学力養成講座③、プレースメントフォーラムの開催、アドバイザーによる個人面談の実施②、全国私立大学就職指導研究会参加③
- 12月 公務員ガイダンスの開催、キャリアカウンセリングの実施、研修会の開催③
- 1月 基礎学力養成講座④
- 2月 キャリア支援フォーラムの開催、研修会の開催④
- 3月 基礎学力養成講座⑤、成果報告書の作成



写真5 2009(平成21)年度プレースメントフォーラム